

Ⅱ 調査結果の概要

1 受療の状況

(1) 入院患者数及び入院受療率

入院患者数は男性 8,099 人、女性 10,473 人の計 18,572 人であった。入院患者数は平成 3 年から男女とも減少傾向が続いている。人口 10 万対の入院受療率は男性 1,238、女性 1,433、総数 1,341 で、入院受療率も減少傾向が続いており、特に、男性で顕著である。入院受療率は、平成 6 年までは男性の方が高かったが、平成 11 年以降は女性が上回っている。

表 1 性別入院患者数及び入院受療率（人口 10 万対）

	入院患者調査			入院受療率		
	総数	男	女	総数	男	女
平成 28 年	18,572	8,099	10,473	1,341	1,238	1,433
平成 22 年	21,529	9,469	12,029	1,504	1,406	1,587
平成 16 年	23,510	10,545	12,934	1,575	1,497	1,640
平成 11 年	24,373	11,277	13,067	1,618	1,583	1,645
平成 6 年	25,157	11,916	13,241	1,661	1,662	1,659
平成 3 年	26,341	12,559	13,782	1,739	1,752	1,727
昭和 55 年	22,088	11,763	10,325	1,466	1,637	1,310

(2) 医療施設別入院患者数（統計表 表 1-1～表 1-2、表 5-1～表 5-2）

医療施設別の入院患者数は、病院が 17,156 人、診療所が 1,416 人で、全入院患者に占める割合は、病院が 92.4%、診療所が 7.6%である。また、調査日現在の病床利用率は、病院 77.6%（病床数 22,099 床）、診療所 47.2%（同 2,951 床）である。

調査年次ごとの入院患者数・入院受療率は、表 2 のとおりである。病院、診療所ともに、患者数は平成 3 年調査時から一貫して減少傾向にあるが、特に、診療所の減少傾向が著しく、全入院患者に占める診療所の割合は、昭和 55 年の 19.3%から平成 28 年には 7.6%に低下している。

圏域別で、診療所の割合が高いのは、松山圏域 10.8%、宇和島圏域 9.1%であり、最も低いのは新居浜・西条圏域 3.2%となっている。

表 2 施設の種別入院患者数・入院受療率（人口 10 万対）

		総数	病院		有床診療所
			精神病院	一般病院	
入院患者数	平成 28 年	18,572	17,156	3,297	1,416
	平成 22 年	21,529	19,452	3,738	2,077
	平成 16 年	23,510	20,948	3,844	2,562
	平成 11 年	24,373	21,418	3,235	2,955
	平成 6 年	25,157	21,615	4,714	3,542
	平成 3 年	26,341	21,845	3,752	4,496
	昭和 55 年	22,088	17,821	4,489	4,267
入院受療率	平成 28 年	1,341	1,238	238	102
	平成 22 年	1,504	1,359	261	145
	平成 16 年	1,575	1,403	257	172
	平成 11 年	1,618	1,422	215	196
	平成 6 年	1,661	1,427	311	234
	平成 3 年	1,739	1,442	248	297
	昭和 55 年	1,466	1,183	298	283

(3) 性別・年齢階級別入院患者数及び入院受療率（統計表 表3-1～表3-3）

入院患者数は、性別では男性が43.6%、女性が56.4%となっている。年齢階級別では、65歳以上が74.6%、75歳以上が54.9%を占めており、特に、女性では65歳以上が79.2%、75歳以上が63.4%を占めている。平成22年の調査と比較しても、入院患者に占める高齢者の割合は上昇している。

入院受療率を年齢階級別にみると、10～14歳が人口10万対93人と最も低く、その後加齢に伴い上昇する傾向にあるが、特に、60歳以上で上昇傾向が顕著になっている。

性別では、男性1,238、女性1,433と、女性の入院受療率が高い。しかし、年齢階級別で見ると、0歳、15～39歳、85歳以上を除く全年齢階級で男性の方が高くなっており、特定の年齢階級が女性の入院受療率を引き上げている。

なお、平成22年の調査と比較すると、1～4歳、30～34歳の年齢階級においては入院受療率が上昇しているが、それ以外の年齢階級においては低下している。

表3 入院患者に占める高齢者の割合 ※（ ）内は%

	平成28年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女
65歳以上	13,858 (74.6)	5,561 (68.7)	8,297 (79.2)	15,007 (69.7)	5,886 (62.2)	9,100 (75.7)
75歳以上 (再掲)	10,191 (54.9)	3,555 (43.9)	6,636 (63.4)	11,075 (51.4)	3,835 (40.5)	7,226 (60.1)

表4 性別・年齢階級別入院受療率（人口10万対）

年齢階級	総数	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39
総数	1,341	1,218	256	101	93	163	237	344	448	333
男	1,238	1,100	271	104	111	152	191	214	310	317
女	1,433	1,343	241	98	74	175	284	472	583	348

年齢階級	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85以上
総数	425	535	688	894	1,137	1,668	1,964	3,015	4,140	7,233
男	437	635	819	1,139	1,423	1,997	2,246	3,205	4,340	6,789
女	412	442	566	669	873	1,365	1,731	2,875	4,016	7,419

(参考) 性別・年齢階級別入院受療率（人口10万対） 前回（平成22年）調査

年齢階級	総数	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39
総数	1,504	1,350	187	176	141	177	254	363	445	401
男	1,406	1,445	165	234	157	187	222	219	353	401
女	1,587	1,214	211	114	125	166	284	503	532	402

年齢階級	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85以上
総数	507	620	831	1,199	1,476	1,912	2,541	3,677	4,884	8,738
男	553	727	1,033	1,495	1,766	2,228	2,905	4,070	5,131	7,843
女	465	521	643	921	1,201	1,634	2,242	3,390	4,733	9,062

(4) 地域別入院受療率（統計表 表4-1～表5-2）

入院受療率を圏域別にみると、今治圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域が高く、松山圏域、宇摩圏域が低い傾向がある。平成22年の調査と比較すると、全ての圏域で低下している。

市町別では、久万高原町が2,486と最も高く、次いで伊方町1,891、内子町1,780となっている。入院受療率が最も低いのは上島町の196であるが、これは入院患者が県外に流出しているためと考えられる。次に低いのは松山市1,100であり、次いで砥部町1,154、東温市1,167となっている。

年齢階級別では、高年齢層において圏域間の入院受療率の格差が大きく、85歳以上では、最も低い宇和島圏域が6,554、最も高い今治圏域が8,750となっている。

入院受療率と高齢化等の関係を見ると、最も入院受療率が高い八幡浜・大洲圏域については、各年齢階級の入院受療率は他の圏域と比べ必ずしも高くなく、高齢者の比率が高いことが全体の入院受療率を押し上げていると考えられる。逆に最も入院受療率が低い松山圏域については、各年齢階級の入院受療率は他の圏域と比べ必ずしも低くなく、高齢者の比率が低いことが全体の入院受療率を下げていると考えられる。

表5 入院受療率と高齢化、病床数

圏域名	入院受療率	入院患者に占める 65歳以上の割合	高齢化率 ※27年国勢調査	人口10万対 病床数	人口10万対 精神病床数（再掲）
宇摩	1,310	78.5	30.2	1,723	414
新居浜・西条	1,405	73.1	30.7	1,919	514
今治	1,511	78.6	33.8	1,711	238
松山	1,135	72.6	26.9	1,765	302
八幡浜・大洲	1,646	79.3	37.7	1,775	446
宇和島	1,478	77.2	37.8	2,123	257
全県	1,341	74.6	30.6	1,812	348

2 紹介の状況（統計表 表7-1～表7-2）

入院患者のうち病院等からの紹介があって入院した者は、全体の49.8%であった。

圏域別では、松山圏域が56.2%と最も高く、次いで今治圏域51.6%であり、最も低いのは、新居浜・西条圏域39.6%である。

病院の入院患者のうち紹介があって入院した者は50.8%であり、紹介元は、病院66.9%、一般診療所16.0%、介護老人保健施設4.0%、介護老人福祉施設3.6%などとなっている。

診療所の入院患者のうち紹介があって入院した者は37.9%であり、紹介元は、病院67.7%、一般診療所12.7%、介護老人福祉施設5.2%などとなっている。

なお、平成22年の調査では、紹介があって入院した者の比率は、病院51.3%、診療所39.2%であった。

表6 紹介の状況（病院・診療所の計）

	総数	紹介あり							紹介なし
		総数	病院から	一般診療所から	歯科診療所から	介護老人保健施設から	介護老人福祉施設から	その他から	
総数	18,572	9,247	6,189	1,463	7	372	338	878	9,325
宇摩	1,025	408	325	53	-	7	7	16	617
新居浜・西条	2,989	1,184	784	203	-	62	71	64	1,805
今治	2,242	1,156	747	137	1	95	43	133	1,086
松山	8,654	4,860	3,387	740	6	119	120	488	3,794
八幡浜・大洲	1,906	826	486	198	-	60	43	39	1,080
宇和島	1,756	813	460	132	-	29	54	138	943

3 来院時の状況（統計表 表8-1～表8-4）

病院の入院患者のうち、救急車により搬送された者の割合は、10.6%であった。

年齢階級別では、0歳が最も高く22.8%、次いで20～24歳15.7%となっている。

診療科目別では、救急科が最も高く76.9%、次いで脳神経外科42.1%、放射線科28.6%、神経内科23.6%、循環器内科21.2%、整形外科20.8%、皮膚科19.5%となっている。

4 入院の状況（統計表 表9-1～表9-6）

入院患者の状況について、「生命の危険がある」とする者が5.1%、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」者が75.3%であり、「受入条件が整えば退院可能」とする者が15.9%であった。

施設、病床の種類別では、「生命の危険がある」とする者は診療所の療養病床（医療保険適用病床）が最も多く8.3%、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」者は結核病床が93.3%であった。「受入条件が整えば退院可能」とする者は、老人性認知症疾患療養病棟が最も多く60.7%、次いでその他の精神病床33.4%、診療所の療養病床（医療保険適用病床）31.4%、診療所の療養病床（介護保険適用病床）19.3%となっている。

年齢階級別では、「生命の危険がある」とする者は0歳を除き高齢者に多く、0歳21.6%、75～79歳5.1%、80～84歳5.8%、85歳以上7.2%となっている。「生命の危険は少ないが入院治療を要する」とする者は若年層に多く、1～9歳では8割を超えている。

過去の入院の状況（主傷病に関連した同一施設における入院であって、退院日が入院年月日から遡って過去30日以内の場合に限る。）については、過去入院有の者が10.8%、無の者が89.2%であり、年齢階級別では高齢者に多く、55歳以上が86.2%であった。傷病大分類別では「精神及び行動の障害」が最も多く38.8%、次いで「新生物」14.0%、「神経系の疾患」10.5%、

「循環器系の疾患」10.4%であった。

表7 入院の状況、施設の種類・病床の種類別

	合計	生命の危険は少ないが入院治療を要する	生命の危険がある	受入条件が整えば退院可能	検査入院	その他
病院合計	100.0	75.7	5.0	15.8	0.4	3.0
老人性認知症疾患療養病棟	100.0	27.0	—	60.7	—	12.4
その他の精神病床	100.0	63.0	1.4	33.4	0.1	2.1
感染症病床	—	—	—	—	—	—
結核病床	100.0	93.3	6.7	—	—	—
療養病床（医療保険適用病床）	100.0	79.8	5.7	13.4	0.8	0.4
療養病床（介護保険適用病床）	100.0	68.4	4.2	18.4	—	9.0
一般病床	100.0	80.6	6.4	8.7	0.5	3.8
診療所合計	100.0	69.8	5.5	16.2	0.6	7.9
療養病床（医療保険適用病床）	100.0	53.8	8.3	31.4	—	6.4
療養病床（介護保険適用病床）	100.0	36.4	5.7	19.3	—	38.6
一般病床	100.0	74.5	5.1	13.9	0.7	5.8

表8 入院の状況、年齢階級別

年齢階級	合計	生命の危険は少ないが入院治療を要する	生命の危険がある	受入条件が整えば退院可能	検査入院	その他
総数	100.0	75.3	5.1	15.9	0.4	3.3
0歳	100.0	66.4	21.6	3.4	—	8.6
1～4	100.0	91.7	2.8	2.8	—	2.8
5～9	100.0	86.0	—	3.5	1.8	8.8
10～14	100.0	70.2	—	12.3	—	17.5
15～19	100.0	56.9	2.9	19.6	—	20.6
20～24	100.0	74.0	3.3	8.1	0.8	13.8
25～29	100.0	71.6	1.5	14.2	0.5	12.3
30～34	100.0	75.6	0.3	13.5	—	10.6
35～39	100.0	72.4	1.8	16.2	1.5	8.1
40～44	100.0	71.6	1.7	17.3	0.5	8.9
45～49	100.0	74.2	1.8	19.5	0.2	4.3
50～54	100.0	75.3	1.4	19.6	0.5	3.1
55～59	100.0	74.5	3.4	18.5	—	3.6
60～64	100.0	73.4	3.5	18.9	0.9	3.3
65～69	100.0	75.2	3.8	17.7	0.5	2.9
70～74	100.0	76.6	5.1	15.5	0.6	2.1
75～79	100.0	76.7	5.1	15.8	0.4	2.0
80～84	100.0	76.9	5.8	15.3	0.3	1.7
85以上	100.0	74.7	7.2	14.7	0.4	2.9

5 心身の状況（統計表 表10）

老人性認知症疾患療養病棟及び療養病床に入院している患者の心身の状況については、特に「移乗」「排便の後始末」について介助が必要とする者が多く、全介助が必要な者は「移乗」で61.8%、「排便の後始末」で68.5%となっている。「食事」で全介助が必要な者は49.5%、

「嚥下」ができない者は 39.0%となっている。また、年齢階級が高くなるに従い、介助を必要とする者の割合が高くなっている。

6 傷病の状況

(1) 医療施設別の傷病の構成 (統計表 表 1 1 - 1 ~ 表 1 1 - 4)

病院で最も多い傷病は、「精神及び行動の障害」20.9%であり、次いで「循環器系の疾患」16.9%、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」11.1%、「新生物」9.9%となっている。

患者構成比が増加傾向にある傷病は、「神経系の疾患」、「呼吸器系の疾患」などであり、減少傾向にある傷病は「循環器系の疾患」、「精神及び行動の障害」などとなっている。

診療所で最も多い傷病は、「循環器系の疾患」22.4%であり、次いで「損傷、中毒及びその他の外因の影響」17.5%、「筋骨格系及び結合組織の疾患」15.9%となっている。

患者構成比が増加傾向にある傷病は、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」、「筋骨格系及び結合組織の疾患」などであり、減少傾向にある傷病は「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「感染症及び寄生虫症」などとなっている。

(2) 性・年齢階級別の傷病の状況 (統計表 表 1 2 - 1 ~ 表 1 2 - 4)

主な疾病について、性・年齢階級別の入院受療率をみると、「新生物」は、全体では男性の方が入院受療率が高いが、25~54歳では女性の入院受療率が高く、55歳以上では男性が高くなっており、特に65歳以上の男性では加齢に伴い入院受療率が大幅に上昇している。

「精神及び行動の障害」は、全体では男性の方が入院受療率が高い。30歳~74歳では男性が高く、10歳~29歳及び75歳以上では女性が高い。特に60歳以上は男女ともに入院受療率が高くなっている。

「神経系の疾患」は、全体では女性の方が入院受療率が高く、特に70歳以上は男女ともに入院受療率が高くなっている。

「循環器系の疾患」は、全体では女性の入院受療率が高いが、20~79歳では男性が高く、80歳以上では女性が高い。特に75歳以上では加齢に伴い入院受療率が大幅に上昇している。

「呼吸器系の疾患」は、全体では男性の方が入院受療率が高く、55歳以上では全年齢階級で女性を上回っている。特に70歳以上では加齢に伴い入院受療率が大幅に上昇している。

「消化器系の疾患」は、全体の入院受療率は男女ともにほぼ同数となっている。特に、男性は65歳以上、女性は75歳以上で入院受療率が高くなっている。

「筋骨格系及び結合組織の疾患」は、全体では女性の方が入院受療率が高く、65歳以上では全年齢階級で男性を上回っている。特に65歳以上では加齢に伴い入院受療率が大幅に上昇している。

「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は、全体では女性の入院受療率が高いが、10~74歳では男性が高く、75歳以上では女性が高い。特に65歳以上では加齢に伴い入院受療率が大幅に上昇している。

表9 傷病・性・年齢階級別入院受療率（人口10万対）

	新生物			精神障害			神経疾患			循環器疾患		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
総数	126	149	105	261	274	250	113	94	130	232	203	258
0歳	-	-	-	-	-	-	10	20	-	-	-	-
1～4	9	18	-	-	-	-	24	37	10	2	-	5
5～9	5	10	-	-	-	-	12	10	14	2	3	-
10～14	5	10	-	7	-	14	20	19	20	-	-	-
15～19	14	15	13	29	15	43	32	34	30	3	3	3
20～24	14	15	12	41	23	58	27	31	23	10	11	8
25～29	12	7	17	89	88	90	19	24	13	5	7	3
30～34	19	6	31	142	159	125	23	20	26	9	14	3
35～39	12	10	15	126	150	102	20	15	24	9	12	5
40～44	36	15	56	189	204	174	35	34	35	28	30	27
45～49	64	45	82	236	301	175	47	43	51	35	48	23
50～54	65	60	69	296	353	243	48	53	44	59	100	21
55～59	96	112	81	326	397	261	54	74	35	97	138	59
60～64	146	180	115	478	592	373	68	69	66	115	159	74
65～69	260	359	170	536	585	491	97	108	87	209	301	124
70～74	312	441	206	435	461	414	149	166	135	303	390	231
75～79	368	512	261	481	409	533	297	291	302	502	594	434
80～84	352	469	279	432	429	434	428	377	459	860	858	862
85～	323	511	244	381	378	382	669	582	706	1,991	1,763	2,085

	呼吸器疾患			消化器疾患			筋骨格系疾患			損傷・中毒		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
総数	105	113	98	59	59	58	90	61	116	156	122	186
0歳	231	285	173	21	-	43	10	20	-	31	41	22
1～4	140	143	138	2	-	5	9	5	15	2	-	5
5～9	37	35	40	2	3	-	-	-	-	7	7	7
10～14	13	19	7	3	3	3	7	10	3	13	19	7
15～19	16	19	13	8	6	10	8	3	13	38	50	26
20～24	25	31	19	15	15	16	4	8	-	27	31	23
25～29	10	7	13	8	7	10	5	7	3	40	61	20
30～34	11	3	20	9	12	6	11	9	14	36	58	14
35～39	9	7	10	17	15	19	17	25	10	26	44	7
40～44	9	15	4	23	36	10	20	21	19	27	38	17
45～49	7	5	9	22	23	21	24	25	23	50	75	26
50～54	17	15	18	28	40	16	42	43	42	56	75	39
55～59	26	38	15	48	69	28	41	38	44	103	131	77
60～64	29	37	23	49	67	32	52	63	41	85	94	77
65～69	57	81	35	60	97	26	112	97	125	164	170	158
70～74	115	166	73	73	68	77	163	118	200	185	194	177
75～79	216	341	125	142	150	136	259	156	335	357	316	388
80～84	371	580	242	213	266	180	344	230	415	545	484	583
85～	894	1,154	786	326	321	327	490	407	524	1,059	643	1,232

(3) 圏域別の傷病の状況（表13-1～表13-2、表15-1～表15-2）

主な疾病について、圏域別の入院受療率をみると、

「新生物」は、男性では八幡浜・大洲圏域が多く、女性では今治圏域が多い。

「精神及び行動の障害」は、男女とも新居浜・西条圏域、八幡浜・大洲圏域が多い。

「神経系の疾患」は、男性では八幡浜・大洲圏域が多く、女性では宇摩圏域が多い。

「循環器系の疾患」は、男性では今治、八幡浜・大洲圏域が多く、女性では今治圏域が多い。

「呼吸器系の疾患」は、男女ともに宇和島圏域が多い。

「消化器系の疾患」は、男性では宇和島圏域が多く、女性では八幡浜・大洲圏域が多い。

「筋骨格系及び結合組織の疾患」は、男女ともに八幡浜・大洲圏域が多い。

「損傷、中毒及びその他の外因の影響」は、男性では宇摩圏域が多く、女性では今治圏域が多い。

表10 傷病・圏域別入院受療率（人口10万対）

	新生物			精神障害			神経疾患			循環器疾患		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	124	146	103	256	269	245	112	93	130	230	200	257
宇摩	100	113	87	259	277	241	158	122	192	222	148	292
新居浜・西条	139	164	115	333	367	302	118	106	129	230	201	256
今治	140	156	126	206	201	210	126	87	160	293	233	346
松山	115	132	100	220	218	221	93	71	114	202	187	216
八幡浜・大洲	141	184	102	362	380	347	160	154	165	261	232	286
宇和島	114	159	75	251	313	196	91	94	88	265	228	298

	呼吸器疾患			消化器疾患			筋骨格系疾患			損傷・中毒		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
総数	104	112	97	58	59	58	88	60	112	153	120	183
宇摩	104	115	94	33	26	40	94	63	123	186	155	216
新居浜・西条	136	139	134	71	72	70	59	32	84	140	123	155
今治	128	126	130	67	64	70	96	78	112	187	137	232
松山	76	84	69	47	48	46	82	57	104	136	103	164
八幡浜・大洲	116	143	93	75	72	77	130	93	164	175	134	211
宇和島	147	155	141	82	92	74	106	62	144	181	138	219

7 患者の圏域間流動の状況

(1) 圏域別の地元入院率

地元入院率とは、

「地元入院率

＝患者現住所地(圏域)内の医療施設に入院している患者数÷患者現住所地(圏域)別の入院患者数」

で計算した値のことである。

圏域別の地元入院率をみると、宇摩圏域、八幡浜・大洲圏域で比較的low、松山圏域、宇和島圏域では90%以上が地元の圏域内で入院しており、特に松山圏域では地元入院率が99.0%と極めて高い。

H22の調査結果と比べると、新居浜・西条圏域及び八幡浜・大洲圏域以外で数値が向上している。

圏域間の動きでは、八幡浜・大洲圏域から松山圏域へ(17.1%)、宇摩圏域から新居浜・西条圏域へ(12.7%)、今治圏域から松山圏域へ(12.4%)の流出が多い。

表 11 圏域別の地元入院率 (%)

圏域名	平成28年	平成22年	平成16年	平成11年	平成6年
宇摩	81.7	79.6	79.7	81.3	78.0
新居浜・西条	85.8	86.5	90.0	90.1	90.5
今治	85.3	83.8	84.6	83.8	81.9
松山	99.0	98.9	98.6	98.5	98.5
八幡浜・大洲	76.8	77.6	80.2	79.9	77.8
宇和島	90.2	89.4	91.0	90.8	90.2

表 12 受療地・患者現住所別入院患者率 (%)

受療地 現住所	総数 (人)	宇摩	新居浜 ・西条	今治	松山	八幡浜 ・大洲	宇和島
総数	18,572	5.5	16.1	12.1	46.6	10.3	9.5
宇摩	1,145	81.7	12.7	0.2	5.3	0.1	-
新居浜・西条	3,205	1.4	85.8	2.2	10.6	0.1	0.1
今治	2,497	0.2	1.9	85.3	12.4	0.0	0.1
松山	7,335	0.1	0.1	0.3	99.0	0.4	0.1
八幡浜・大洲	2,376	-	0.1	0.0	17.1	76.8	6.0
宇和島	1,687	-	0.1	-	7.4	2.3	90.2
県外	309	11.0	10.0	6.1	43.4	3.6	25.9
不定	18	-	-	-	100.0	-	-

(2) 市町別の地元入院率（統計表 表17-1～表17-4）

市町別の地元入院率及び主な流出先は、次表のとおりである。

表 13 患者現住所別の受療地 ※受療地は5%以上を記載

患者現住所	受療地
四国中央市	四国中央市 81.7%、新居浜市 12.4%
新居浜市	新居浜市 83.5%、西条市 5.7%
西条市	西条市 72.1%、新居浜市 10.4%、東温市 7.2%、松山市 5.4%
今治市	今治市 85.4%、松山市 7.9%
上島町	今治市 64.3%、松山市 28.6%、四国中央市 7.1%
松山市	松山市 89.5%、東温市 5.3%
伊予市	松山市 60.2%、伊予市 15.7%、松前町 11.3%、砥部町 5.2%、東温市 5.0%
東温市	東温市 51.5%、松山市 44.3%
久万高原町	松山市 41.4%、久万高原町 41.9%、砥部町 7.1%
松前町	松山市 64.4%、松前町 20.5%、伊予市 7.7%
砥部町	松山市 58.4%、砥部町 28.6%、東温市 6.5%
八幡浜市	八幡浜市 70.0%、松山市 11.1%、大洲市 8.8%
大洲市	大洲市 68.6%、松山市 13.6%、八幡浜市 6.6%、内子町 6.5%
西予市	西予市 38.3%、八幡浜市 21.9%、宇和島市 16.7%、大洲市 8.4%、松山市 7.8%
内子町	大洲市 48.7%、松山市 19.5%、内子町 17.4%、東温市 5.4%
伊方町	八幡浜市 69.2%、松山市 12.1%、大洲市 8.8%
宇和島市	宇和島市 86.5%、松山市 5.0%
松野町	宇和島市 39.6%、松野町 28.3%、鬼北町 15.1%、松山市 5.7%、東温市 5.7%
鬼北町	宇和島市 50.0%、鬼北町 42.9%
愛南町	愛南町 56.6%、宇和島市 27.6%、松山市 7.5%

(3) 傷病別の地元入院率

傷病大分類別の地元入院率は、「内分泌、栄養及び代謝疾患」「症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」で高く、各圏域とも地元入院率が90%を超えている。

一方、「新生物」「眼及び付属器の疾患」「耳及び乳様突起の疾患」「周産期に発生した病態」「先天奇形、変形及び染色体異常」など、専門的治療を要する傷病、患者数の少ない傷病については、地元入院率が低い傾向にあり、圏域間の地元入院率の格差も大きい。

なお、松山圏域では、「妊娠、分娩及び産じょく」を除く全ての傷病で地元入院率が95%を超えており、圏域外への流出は少ない。

表 14 患者現住所（圏域）・傷病大分類別 地元入院率

	総数	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島
総数	88.4	81.7	85.8	85.3	99.0	76.8	90.2
I 感染症及び寄生虫症	87.8	80.0	88.0	90.7	99.0	67.5	86.7
II 新生物	75.1	47.1	62.3	64.7	99.3	37.9	83.1
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	86.7	100.0	85.7	88.9	95.8	75.0	88.2
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	96.8	97.5	93.6	98.3	99.5	90.6	100.0
V 精神及び行動の障害	86.8	77.4	88.8	62.1	98.0	85.9	83.9
VI 神経系の疾患	87.3	87.7	73.6	87.5	99.5	72.3	93.3
VII 眼及び付属器の疾患	68.1	-	50.0	52.6	98.1	-	64.7
VIII 耳及び乳様突起の疾患	94.7	-	90.0	90.9	100.0	100.0	100.0
IX 循環器系の疾患	93.1	86.1	93.1	94.8	99.5	80.3	91.1
X 呼吸器系の疾患	95.1	80.2	96.1	97.6	99.4	90.5	97.0
X I 消化器系の疾患	91.3	96.6	91.4	94.6	99.0	66.7	94.7
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	90.8	90.0	80.0	83.3	100.0	85.0	93.9
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	85.3	87.8	79.3	74.8	99.6	72.9	85.1
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	91.0	90.6	87.5	95.5	99.3	85.5	90.4
X V 妊娠、分娩及び産じょく	70.9	60.0	82.9	84.2	87.5	57.1	100.0
X VI 周産期に発生した病態	69.6	42.9	26.7	83.3	100.0	33.3	100.0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	56.1	-	18.2	16.7	100.0	12.5	57.1
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	95.3	100.0	91.7	97.1	98.9	94.3	94.1
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	94.1	90.2	95.0	95.5	99.4	84.1	96.6
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	72.5	57.1	50.0	82.4	96.4	46.2	66.7

8 介護保険適用の入院患者の状況

(1) 介護保険適用の入院患者の概況 (統計表 表18-1～表20-2)

全入院患者 18,572 人のうち、介護保険適用の入院患者の数は 780 人であり、介護保険適用患者の割合は、4.2% (病院 4.0%、診療所で 6.3%) である。

介護保険適用患者の割合は、年齢が高くなるにつれて上昇し、80～84 歳で 5.1%、85 歳以上で 9.1% となっており、特に女性でその傾向が強い。

圏域別では、宇摩圏域で 7.9% と介護保険適用患者の割合が高く、新居浜・西条圏域 1.7%、八幡浜・大洲圏域 2.2% で低くなっている。

介護保険適用患者の内訳は、男性 27.4%、女性 72.6% と、女性が約 7 割を占めている。

年齢階級別では、80～84 歳が 17.7%、85 歳以上が 60.9% と、85 歳以上が約 6 割を占めており、特に女性では、85 歳以上が 68.7% を占めている。

(2) 介護保険適用患者の傷病の状況

(統計表 表21-1～表21-2、表24-1～表24-2)

介護保険適用患者の診療科目は、内科が 81.0% と 8 割以上を占めている (患者全体に占める内科の割合は 30.6%)。内科以外では、消化器内科 (胃腸内科) 6.4%、外科 4.5%、循環器内科 4.0% など、特定の診療科に集中している。

介護保険適用患者の傷病の状況を傷病大分類別で見ると、「循環器系の疾患」が 54.6% を占めている (患者全体に占める「循環器系の疾患」の割合は 17.3%)。これ以外では、「神経系の疾患」17.2%、「精神及び行動の障害」「損傷、中毒及びその他の外因の影響」がともに 5.1% であり、特定の疾患に集中している。

(3) 介護保険適用患者の入院・心身の状況 (表22-3～表23-2)

療養病床に入院する患者の状況を介護保険の適用の有無別にみると、「生命の危険がある」とする者は、介護保険適用患者では 4.4%、介護保険適用以外では 5.8% であった。また、「生命の危険は少ないが入院治療を要する」者は、介護保険適用患者では 63.2%、介護保険適用以外では 78.9% と介護保険適用患者の方が治療の必要度は低い。「受入条件が整えば退院可能」とする者の割合は、介護保険適用患者で 19.5%、介護保険適用以外では 14.0% であった。

老人性認知症疾患療養病棟及び療養病床に入院している患者の心身の状況を、介護保険の適用の有無別にみると、「移乗」について「全介助が必要」とする者の割合は、介護保険適用患者が 80.6% に対し、介護保険適用以外では 58.2% となっている。「食事」について「全介助が必要」とする者は、介護保険適用患者 61.6% に対し、介護保険適用以外で 47.2%、「嚥下」ができない者は、介護保険適用患者 46.7% に対し、介護保険適用以外で 37.5%、「排便の後始末」について「全介助が必要」とする者は、介護保険適用患者 88.9% に対し、介護保険適用以外で 64.6% と、全ての項目において、介護保険適用患者の介護を要する度合いが、介護保険適用以外の患者を上回っている。

(4) 介護保険適用患者の地元入院率（統計表 表25-1～表25-2）

介護保険適用患者の地元入院率は、宇摩圏域 100.0%、新居浜・西条圏域 89.3%、今治圏域 97.3%、松山圏域 99.7%、八幡浜・大洲圏域 81.1%、宇和島圏域 96.5%であり、全入院患者の地元入院率と比べ高い傾向にある。

市町別の地元入院率は、次のとおりである。

表 15 介護保険適用患者の患者現住所別の受療地

患者現住所	受療地
四国中央市	四国中央市 100.0%
新居浜市	新居浜市 81.8%、四国中央市 18.2%
西条市	西条市 77.8%、新居浜市 13.3%、今治市 6.7%
今治市	今治市 97.3%
上島町	今治市 100.0%
松山市	松山市 98.4%
伊予市	松山市 50.0%、伊予市 31.3%、砥部町 18.8%
東温市	東温市 66.7%、松山市 33.3%
久万高原町	久万高原町 80.0%、松山市 6.7%、砥部町 6.7%、四国中央市 6.7%
松前町	松山市 83.3%、伊予市 16.7%
砥部町	松山市 55.0%、砥部町 45.0%
八幡浜市	八幡浜市 73.7%、松山市 15.8%、大洲市 10.5%
大洲市	大洲市 87.5%、八幡浜市 8.3%
西予市	宇和島市 50.0%、大洲市 25.0%、松山市 25.0%
内子町	松山市 100.0%
伊方町	八幡浜市 100.0%
宇和島市	宇和島市 100.0%
松野町	—
鬼北町	宇和島市 100.0%
愛南町	松山市 66.7%、宇和島市 33.3%